

玄 debut

GENPIN

靴

「玄靴」 購買者第一号、

**HEMP FLAX 社が購入、**

**Hemp Museum**

**に展示決定 !!**



まほろば主人

宮下周平



## 幸先の良い世界デビュー 果たす

「この墨をニつ下さう」

京都国際会議場の「麻福」さんの隣、まほろばブースに寄って来られた欧米の招聘者に求められた。7月2日、ここでは、「第一回世界麻環境フォーラム 京都2016」が開催されていた。  
（何方どなただろう。内心、驚きながらも、初売りに嬉しさを隠し切れなく……。）

初めてのお客様である。（墨など、どつするのだろうか。書道など

理解されているのだろうか）内心、フト思った。

すると、通訳の方が、

「一カ所のヘンプミュージアムで、展示したいから」と。名刺を頂くと、オランダのベン・ドロンガー氏。

国内外から集まった麻の第一人者たちの中のメインスピーカー。何と、世界的な麻の権威者であった。

オランダのアムステルダムとスペインのバルセロナの二都市に、

Temp Museum 麻の博物館を運営されている館長さんであるとか。人類創始からの麻との付き合い、その麻の歴史と産業と文化の足跡を世界中から資料文献文物を集めた、世界最大のミュージアムである。いわば、すべての麻に関わる殿堂で、世界中の学者・研究者・従事者等が、一度は尋ねる聖地でもあった訳だ。

そんな中に、日本が麻を使った墨、西洋的に言えばオリエンタル・カリグラフィのカーボンインクに麻が使われているとなれば、真新しい知見でもある。何せ、本場日本・中国でも存在しないのであるから。これが、ミュージアムに展示されて、初めて世界の人々に紹介される訳で

ある。これほど、解りの早いご縁とルートはこの世にない訳で、手っ取り早い頂点に行き着いた感である。何というラッキー!!これは、これだけで充分、この為に用意し





て来たと確信した。この出会いがあれば、後は時に任せるのみだ、と思われた。

### 文化人類学者 辻信一さんの出会い

そして、さらに驚くべき話が続く。その通訳をしてくださった方が、辻信一さん。今を時めく文化人類学者のあの辻さんである。今日のデスカッションの総司会を見事にこなされた。スローライフ、スローフード、ブータン、GNH（国民総幸福量）など世に広めたその人である。

小さいこと、少ないこと、ゆつくりしたことなどなど反文明をまっしぐらに行く、行動する学者さんである。この方が、何とその日、お手伝いにいらした京都のトータルヘルスデザインのまほろば担当高木みのりさんの明治学院大学時代の教授だったのだ。高



木さんも、先生に鍛えられた天性の閃きと行動力で、何と日本に初めて「ホ・オポノポノ」を引っ提げて来られた功労者でもあった。二人共ども先住民の精神文化に最も惹かれ、世界中にアンテナを張

り巡らせている。

その高木さんが、私を辻先生に是非、引き合わせたいと常々願っていたことが今回実現できると喜んで馳せ参じられたとか。そんな背景で、すぐ辻さんはベンさんとなりなしてくれて、細かな内情を通訳してくださった。ベンさんは、ユーロのキャッシュユで、その場で支払われて行かれた。

## HEMP FLAX 社の功績

ところが、その直後に知った、名刺に在る「HEMP FLAX 社」社長の名。読者もネットで、この会社を検索してください。  
<http://hemplax.com/>

ビックリです。というのも、世界の最先端で進んでいる産業用大麻栽培を映す動画で最もヒットするのが、実はこの「HEMP FLAX 社」だったのだ。想像を絶するくらい世界は進んでいると実感させるのが、ベンさんの会社内容だった。それは、凄いの一言なのだ。そのスケール、そのストーリー、



そのスピードは、新しい世界を開く麻文化・麻産業の象徴でもあるのだ。建築用建材、車両資材、農業資材、食用医療関係等々、枚挙に暇ない。ことに欧州車のブガッティ、ジャガー、BMW、ベンツなど高級車のドアパネルやダッ





## 遅れる日本の対応

シユボードに麻繊維製品が使われ、車体の軽量化、排気ガスの軽減、化石原料の削減に貢献している。HEMPFLAX一社がこれに応じていて、老舗車メーカーとの信頼は極めて厚い。

つまり、ベン氏は、この会社の創始者で、ヨーロッパ随一を誇るヘンプ農場と加工工場を持つ麻産業最大の旗手でもあったのだ。

日本は実に、立ち遅れている。未だに、産業用大麻を栽培することさえ国の許認可が下りないまま伸び悩んでいる。一時の北海道における上り調子も抑えられた感が否めない。欧米に比せば、取り返しがつかないほど立ち遅れていることか。医療用大麻にしても、海外の医薬会社が日本においてのカーナビノイドに対する数々の特許を次々と取得している。将来にわたっての国内利権を、国民が知らぬ間に海外に手渡してしまっている。

る。気付いて解禁された時には、すでに国益は大方失われているだろう。こつも拗れるのは、戦後のGHQの政策とはいえ、明治維新以前以降、日本の後ろ手に蠢く何者かの暗躍であろうか。

しかし、まほろばはヘンプオイルを販売することで、生理健康面からの内的改善を地道に取り組んでいる。その日、北海道産業用大麻協会代表理事の菊地治巳先生も登壇され麻研究者としての現場報告があり、氏がこれからも不屈の精神で荒野を開拓されんことを祈るや切なり。また門川京都市長や鳥取県智頭町でご自分で麻栽培されている安倍総理の昭恵夫人も来場して、麻復興へのエ



ールを送られた。

麻復興の呼びかけを、菊池先生や北見・香遊生活の舟山秀太郎社長は栽培普及を以て内堀を埋め、そして、墨や香水、オイルなどの文化・健康事業で外堀を埋める作業を、まほろばが担っている。時間がかかる。しかし、時間をかけねばならない。2500年以上、日本の歴史を支え続けて来たこの天与の植物に敬意を表し、後代の若者のためにも道を開かねばならない。ゆくゆくは仁木町で麻栽培をも手掛ける日を待ちたい。

## 「麻地球日本祭」も同時開催

上賀茂神社にても、この2日にわたって「麻地球日本祭」があり、多くの麻関係者が国内外から参加され、日本人の生活と共にあった秘めたる麻の衣食住医工エネルギーをそこかしこで披瀝していた。知らぬ間にこれほどの人々が麻に関心があつて、産業普及に挺身され

ていたことに驚く。麻産業界における国際的なリーダーの役割を果たしてきたヘンプフード・オーストリアのポール・ベンハイム社長も昨日に次い



で立ち寄りられた。オイルやナッツの食糧は無論、世界最大のCB Dヘンプオイル製造会社エリクシノール社のオーナーで、まほろばも同じ意味のELLIXIRを開発したことで共感が深まった。

## 「古梅園」で初展示

その翌日、奈良古梅園に立ち寄り、フォーラムの報告とこれらを話し合った。そして、その日、店頭で晴れて「玄牝」が並んだ。最も高額な展示スペースに。店内最高値十万円也の値札が張られ、後ろの壁には、島田編集長がデザインした靈氣に満ちたパネルが吊り下げられた。古都奈良の、四五〇年の歴史ある老舗の店頭に、まほろばが初登場した記念すべき日でもあった。これから、どのように進展してゆくかは、天のみぞ知ること。ただ、目に見えない力に導かれて取り組んだこの3年間。きつと実を結ぶ日も来るであろうかと祈るばかりである。

## 第二章の始まり

この日のために、完成を急いだものは、まほろばオリジナル墨の他に香水があつた。



最高級名墨のスペースに鎮座した「玄牝」100,000円。左は、菜種油煙墨「八角老松」86,400円、右は「飲中八仙」97,200円の高級油煙墨のラインナップである。

島田編集長デザインのパネルが中央に展示されている。



本体の香水や墨は、既に仕上げた久しいが、それを包む箱モノが殊の外、手間がかかり、悩みの種であった。ここまで本体の中身を追及して完成したものを、それに相応しく創作していくのは並大抵のことではなかった。桐箱一つとっても、全国を巡って東京の老舗を探し当てて頼んでみたが、その後も難儀であった。素人ながらプロにもズケズケ物言いをして、よりよい物に仕上げるために厳しく注文を付けた。そこで、一道は、万枝に通じると実感した。エリクサー制作などで、徹底したこだわりの眼が生きたのであろうか。そのやり直しや交渉など、大層時間がかかったが、何一つ手を抜けなかった。あの吉岡幸雄氏の工房も然り、一色の染めに一年以上費やした。ましてや、すべてが専門外のこと、一から学んで探し始めることは、この他労を要した。古典的な桐箱の印字も、UV印刷とレーザー彫りという最先端の技術を導入して風格を損なわないように



「玄牝」を包む麻布は、古代染めの第一人者吉岡幸雄氏により詞子（アルラ）の実で染められた

した。その際、まほろばの身近なお客様のご縁に助けられ、また長年本店に勤めている小田島町枝さんのご子息、忠幸君の優れた技術が光っていることを申し添えたい。ありがたい、感謝である。

ここで、一部公開。桐箱のサイズである。これは、白銀比で作られている。法隆寺など寺社建造物の比率が $1:\sqrt{2}$ 。



つまり $1:1.4141$ 。縦横の比で、これを倍掛けて長くし、縁もこの比にしたのだ。これによって更に日本文化のエッセンスを形に託した。

帰店後に、千葉から本木敬子さんが半年前からの予約で「あはれ」のエクセレントセットを求められた。購買者第一号である。

これも完成直前まで、難儀を尽くした。

奈良高山の久保左門さんへの依頼、小瓶竹筒制作より5年も経ち、古西陣織の小袋から最後、麻綿を敷き、和綴じの解説本と麻紐。桐箱の題字を掛け軸の表装屋さん

依頼するまで、兎に角、着想試作完成までに長らくお待ちさせた。しかし、楽しみながら何とか漕ぎ着けた。後は、流れに任せるのみ。京都の通販会社、THD（トータルヘルスデザイン）さんとプレマさんとの取り扱いが決定。何時か、華開く時も来よう。この高額ながら、一つの高みをどう繋げるか、これからの課題である。いよいよ、第二章が始まった。



写真左より

- ・「玄牝」（桐箱入り） 100,000 円
- ・「天晴」太古の叡智エクセレント（伽羅・麻入り） 93,000 円
- ・「愛者麗」心の花束エクセレント（伽羅・麻入り） 98,000 円